

議論の中から新発見

中学校体験学習事業を始めます

令和5年度から、東日本大震災被災地で、被災者と出会うなどの体験学習を行います。2泊3日の修学旅行に代わり、3泊4日の行程で東北地方及び首都圏を回ります。

5567万8千円

Q 東北の行程の内容は。

A 初日から3日目朝までが東北地方。東日本大震災の遺構・伝承館、石巻市の語り部と歩く予定。

中尊寺や松島汽船に乗船する計画もある。

Q 首都圏の行程の内容は。

A 6中学校それぞれで内容が異なる。国会議事堂やデイズアリーゾートなどだ。

Q 保護者負担は。

A 生徒一人当たりの費用は9万円から10万円を想定。保護者負担額は検討中。



▲東日本大震災の震災遺構

学校給食食材料金の保護者負担金を見直します

食材価格の高騰で、従来の給食費の範囲で学校給食を提供することが困難になり、令和4年11月から1人1食30円の値上げを実施します。令和5年3月まで値上げ分を市が負担します。

1314万4千円

Q 保護者負担は。

A 保護者の経済的負担の軽減のため、学校給食の無償化期間を12月まで延長し、令和5年3月までは給食費の保護者負担を据え置くため補正予算を計上した。

Q 保護者への周知は。

A 7月20日に「愛西市学校給食費の現状について」、8月の学校出校日に「給食費値上げのお知らせ」を全保護者宛てに配布し、周知した。

給食費補助の近隣自治体との比較は。

A 本市の補助は、1人1食10円の補助を行っている。近隣自治体では、あま市で10円、津島市で15円、蟹江町で30円など補助を行っている。

小中学校適正規模等並びに老朽化対策地区検討協議会（以下「地区検討協議会」）を設置します

地区検討協議会は、各地区11名（有識者3名、保護者代表2名、自治会代表4名、学校評議員2名）が4地区あるため計44名分の予算で、6回程度開催します。

172万4千円

Q 今開催されている学校適正規模等の検討協議会のメンバーが地区検討協議会に自動的に入るのか。

A 検討協議会の委員である地区代表の方は、公

募の要件にも記載があるので、主体的に入ってもらいたい。

農業生産者を支援します

農業の生産性の向上を図るため、機器の購入や施設の改善に国・県の助成金を活用します。

391万8千円

Q 農地利用効率化等支援事業費と、施設園芸省エネルギー化施設整備事業費の補助対象は。

A 今回、申請があった農地利用効率化等支援事業費補助金は、稲刈り用のコンバイン。施設園芸省エネルギー化施設整備事業費補助金は、ハウス内の空気を循環させるための換気設備。